



10月15日・16日に日本ロボットリハビリテーション・ケア研究大会がよしみず病院の「ばるて」で開催されました。今回で11回目となる本大会は、よしみず病院の小川医師を大会長に迎え、初の試みとなるハイブリッド形式での開催でした。

当院からは宇野PT、大月ST、徳重STの3名が当院での取り組みを主軸とした発表を行い、全国から参加された方々に当院のリハビリを知って頂く良い機会となりました。発表者だけではなく、運営として協力して頂いた職員のおかげもあり、盛況のうちに会を終えることが出来ました。皆さんお疲れ様でした!!

新しいテクノロジーを活用したりリハビリ・ケアに触れることができ、今後のロボットリハビリテーションの可能性を感じることができた大会でした。

脳神経筋センター よしみず病院 言語聴覚士 大月 悠



関門神経・筋疾患研究会について

関門神経・筋疾患研究会は令和3年7月に下関地域における神経・筋疾患の診療力の向上及び医療連携の充実、臨床研究の促進を図り、地域医療に貢献することを目的として発足しました。趣旨に賛同していただいた下関市内の脳神経内科医、脳神経外科医9名の協力を得て、世話人会を立ち上げ、「ばるて」で月1回の研究会を開催しています。研究会は脳神経筋センター長の神田先生、川井副院長のほか世話会の先生が講演され、神経難病に対する治療実績の紹介や現在338種類ある難病の1/4を占めている神経難病の症状や治療方法について毎回1疾病ずつわかりやすく紹介いただいております。研究会の参加者には大変好評をいただいております。現在は新型

コロナウイルス感染症の感染対策のため、現地とWEB聴講のハイブリッド開催が中心となっていることや、下関医師会の後援を取り付け、日本医師会生涯教育認定単位が取得可能なことから、研究会には当院役職員のほか、関門地域、県外からの参加もあり、毎月50名程度の参加をいただいております。本研究会が医療従事者間での知識共有や情報交換の有益な場となり、脳神経筋センターとしてのプレゼンス向上につながっています。

よしみず病院ホームページや病院内に研究会の案内チラシを掲示していますので、ご興味がある方は一度参加されてみてはいかがでしょうか。



Column



私が脳神経内科に携わり、約40年になります。小説、映画やドラマが好きですが、神経難病を題材にしたものがたくさんあります。その中で何度も見たのが『レナードの朝』です。嗜眠性脳炎でパーキンソニズムを呈し、約30年全介助に近い状態であった患者らが、開発されたばかりのLドパを服



用することで目覚めて(オリバー・サックス原作のノンフィクション・映画の原題はAwakenings)、ひと夏の間、ほぼふつうの生活を送ることになります。患者レナード役のロバート・デニーロの演技が素晴らしく、映画の後半で徐々に不随意運動が出て、また機能を失っていく恐れを見事に演じていました。恋心を抱く女性(患者の娘)とダンスを踊る最後のシーンは感動的です。これを見て、患者・家族に与えることができる手段(薬剤や他の治療法)を提供できることは素晴らしいことですが、一瞬の光であってはならないことも教えてくれます。

脳神経筋センター よしみず病院 院長代行 橋口英志

編集後記

開院一年を経て

あけましておめでとうございます。よしみず病院が開院し1年が経ちました。今回の広報誌では、最新記事を含めた昨年の振り返りという内容で作成を進めてまいりました。年間を通して、ふれあい医療フェスなどの院内イベントを行うにも感染状況に気を配っての開催でしたが、イベントによる集団感染等もなく、少しずつではありますが、コロナ禍前の活況を取り戻しつつあるように感じます。今年もコロナとの闘いは続きそうですが、皆様も健康に気をつけて飛躍の年となりますことを祈念いたします。本年もよろしくお願い申し上げます。

脳神経筋センター よしみず病院 広報部 新田誠敏



Access



〒751-0826 山口県下関市後田町1丁目1番1号
TEL: 083-231-3888 FAX: 083-231-7957
E-mail: hosp@akn-yoshimizu.com

- 電車・バスをご利用の場合
- JR下関駅からサンデン交通バス ③・④(トンネル経由除く) 番乗り場より乗車 「山の口」バス停下車 徒歩5分
 - JR幡生駅からサンデン交通バス ③番乗り場より乗車 「山の口」バス停下車 徒歩5分
- 車をご利用の場合
- JR下関駅から約10分
 - 下関ICから約10分

よしみず病院 ☎ 083-231-3888

平日 午前9:00 ~ 午後5:00 土曜日 午前9:00 ~ 午後0:00

よしみず病院 <http://www.akn-yoshimizu.com/>

門司病院 <http://www.akanekai-moji.com>

よしみず病院附属看護学院 <https://yoshimizu-kango.com>

Tokiyo



時世 [ときよ]
VOL. 30
2023.JANUARY

「世」という文字は「世」とも書き、「十」を3つ重ねた文字であり、30を表し30年間を意味します。茜会創立30周年にちなみ、「時世」と改称しました。

茜会理念 医療法人茜会は、外来・入院・在宅の三位一体の総合医療を目指し、地域医療に貢献します。

- よしみず病院理念 病めるひとのために、より良い医療を追求します。
- 基本方針
- 在宅療養後方支援病院として、地域に根ざした医療を提供します。
 - 思いやりや、優しさを持って患者さんに接します。
 - 難病や障害を持った患者さんに、適切な医療・リハビリテーションを行います。
- 先進的な医療・介護に取り組みます。
- 職員は健全な経営を行うため努力し、働きやすい病院を目指します。



脳神経筋センターよしみず病院 新年のご挨拶

院長 吉水一郎



明けましておめでとうございます。昨年は国際的な紛争や自然災害などで世界中でも思ってもみないような出来事が多くありました。よしみず病院の中でも予想外の出来事が多くありました。新築の建物の問題で、実際使用する、不便であったり、構造上望ましくないようなことも少なからずみられました。病院の機能としては1年経ち、大きく飛躍したように思われます。脳神経筋センターの機能として神経難病患者さんが県内はもちろんですが県外からもみえるようになり、外来スペースをもう少し多く取るべきであったと後悔しました。また、秋には神経難病についての市民公開講座が開催され、約200人弱の多くの方にお見え頂き、難病に関してのご理解を深めて頂きました。近隣の方や、難病患者のご家族

の方など、想定より多くの方がいらしたのには驚きました。病院内にはパーキンソン病、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症、多発性硬化症、筋ジストロフィー、末梢神経障害、認知症など多岐にわたる難病の患者さんが入院され、病院内の年齢層や、疾患の割合が大きく変化しました。我々医療従事者は研修や勉強会に参加し、疾患の理解を深めましたが、それと共にこれからは、患者やご家族の精神的な負担や心理変化にも多く気を配らなくてはなりません。電子カルテ導入、MRI、脳SPECT、筋電図などの医療機器の整備は進み、当初からの目的である「神経難病患者の初期診断から、終末期まで一貫した治療が出来る病院」を目指します。その為には本年では、地域のニーズを読み取った病棟整備を行い、少しでも多くの患者さんを診れるヒトづくり、病院づくりを進めなければならないと感じております。これからも職員一同地域社会に貢献できるように邁進いたしますので本年も宜しくお願致します。



■足の健康フェスタ in 下関

昨年の11月に(一社)フット&ボディバランスアジャストメント機構が主催している「足もとから歩くバランスを整えて身体全体を快適に!そして沢山の人の笑顔に!」をコンセプトとした、足の健康フェスタ in 下関が開催されました。

イベントでは、多くの来場者が参加され、当院リハビリスタッフも参加して来場者の足の悩みや足の測定を行いました。

今回は是非、当院主催でのイベントの開催ができればと思います。足のお悩みがある方は、リハビリ赤川・長戸までお気軽にご相談ください!!



■わかば保育園 クリスマス会

12月19日(月)子どもたちと職員でクリスマス会をしました。ツリーや壁面を可愛く飾りつけ楽しい雰囲気の中でスタート。まず各クラスで順番に出し物をしました。ひよこ組さんは、毎日しているお返事や手遊びをし、ノリノリでたいこやマラカスを鳴らしたりして、とても可愛い姿を見せてくれました。うさぎ組さんは、リズム遊びといろいろな野菜に変身して踊りました。緊張していた子どももいましたが、最後まで頑張りました。くま組さんは、クリスマスソングを歌った

り、やぎさんゆうびんの劇をしました。時折恥ずかしそうな表情を見せながらも上手に台詞を言うことが出来ました。どのクラスの子も、ほとんど泣くこともなく笑顔を見せながら楽しそうにしている、その姿に感心しました。最後は待ちに待ったサンタさんの登場で大興奮!! サンタさんを見て泣く子どももいましたが、一人ひとりプレゼントをもらい、満面の笑みの子どもたちでした。穏やかな雰囲気の中でクリスマス会を無事終えることが出来ました。



Message

よしみず病院事務長 小西 信幸



新年あけましておめでとうございます。まず、昨年を振り返りますと世界情勢も昔会も大きな変動の年でありました。昔会の中でも一番大きな出来事は、やはり「昭和病院」から「脳神経筋センターよしみず病院」に変わったことです。新しい施設設備だけではなく、電子カルテも導入され、患者層も変化があり、新たな治療や検査など、様々な「初めて」に対して試行錯誤した年であったと感じます。ようやく1年が経ち、最初は不安だけではありませんでしたが、皆さんの頑張りが実を結び、先の見通しが少しづつ立ってきたように思います。今年は兎年で、飛躍、向上の年とされています。昔会だけでなく、グループ全体で協力し、基盤を固め、飛躍の1年にしていきたいと思います。

勝山クリニック事務長 山田 昌美



勝山クリニック事務長の山田昌美と申します。令和5年1月1日、よしみず病院附属看護学院の事務長に就任いたしました。本校は医療法人茜会が看護人材の育成のために設立運営している学校です。令和3年12月より「ウエストジャパン看護専門学校」から「よしみず病院附属看護学院」へ学校名が変更しました。地域で生活する人々の地域保健医療福祉の発展に寄与できるよう医療機関と学校教育の職務に日々精励し、職責を果たせるよう努力してまいります。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

吉水内科事務長 野村 浩



この度、1月1日付で吉水内科の事務長を拝命いたしました野村と申します。私は、約12年前に茜会に入職し、昭和病院と門司病院でいずれも総務課の職員として従事してまいりました。現在、医療機関の事務業務全般を統括する事務長という職をとても重く感じているところです。これからは、医事をはじめ様々な知識を蓄え、多くを経験することで職責を果たしてまいりたいと考えます。そのためにも、今後皆様のご協力をいただかなくてはなりませんので、その際はどうぞよろしくお願いたします。

YOSHIMIZU HOSPITAL 茜会1年の出来事



入社式 (法人全体)

よしみず病院の入職だけでも50名、法人全体で70名余の入職となりいまだにない人数の入社人数となりました。



子ども食堂(よしみず病院)

よしみず病院内の「ばるて」にて、地域に開かれた病院をスローガンに始めた活動です。昨年から始めた活動で、いずれも地域の子供たちが食事をしていました。今後は可能な限り毎月行う予定です。



よしみず病院附属看護学院宣誓式

2022年よしみず病院附属看護学院と改名後、初となる宣誓式を執り行いました。4月に入学した一年生が「看護の倫理要領」を宣誓し、志新たに、看護師への目標に進み始めました。



ふれあい医療フェス 2022

10月には、初の試みとなるふれあい医療フェスを行いました。神経・難病・リハビリの研究の発表に始まり、健康福祉相談や認知症の人と家族の会、骨密度測定、血管年齢測定などの健康測定を行いました。その他にもお祭りのような催しや消防車両の展示など、家族で楽しめるような企画も行いました。



市民公開講座

ふれあい医療フェス当日の午後より、市民公開講座を行いました。テーマは「意外と身近な神経難病って何だろう?」でした。予定していた人数よりも多くの方が来院され、会場外にもモニターを設置し対応しました。多くの方が神経難病に興味があることもわかりました。



しものせき未来創造jobフェア

「しものせき未来創造jobフェア」は、下関の企業・団体を紹介する職業体験イベントです。この度は、医療法人茜会としてブースを出し、このフェアを通じて、医療を志すきっかけになればと思います。



ブルン療養病院

2019年8月に韓国の慶尚南道(ケイジョウナンドウ) 昌原市(チャンウォンシ)にあるブルン療養病院と地域の健康増進及び多様な社会参加に貢献することを目的とし、業務提携協定を結び、交流を開始しました。コロナ感染症の拡大等により、初年の交流を最後に3年間活動ができていませんでしたが、この度、3年ぶりに交流を再開し、よしみず病院見学及び関連施設等の視察を行いました。また、当法人とブルン療養病院との業務提携の調印式を行い、引き続きの提携を結びました。

